

研究主題：主体的、対話的で深い学びの実現を目指して（3年次）

~TANKYU~

谷地南部小学校
校内研究だより
2023. 12. 12
No.41 文責 山田

1年 国語科 「ようこそ おはなしの森へ～おかゆのおなべ～」

1年 授業研究 成果と課題

交流のさせ方について

- 交流時間が長かったが、1時間の中には必要な長さだった。
- 動画を見せるタイミングが良かった。子どもたちの食いつきもよく、交流とは何をすればいいのかが分かる内容になっていた。
- 1回目の動画でポイントをつかんではいしたが、2回見せたことで視点がはっきりした。
- 2つの動画を別々に見せたことで、ペア以外の交流相手の選び方が分かった。

深い学びをうむための言語活動について

- 自分の好きな本（むかしばなし）で紹介するための、今日は練習。方法を学ぶための時間となっていた。
- たくさん交流するから、慣れてだんだんと話がうまくなっていくのが分かる。余計な文（無駄な部分）が削がれ、必要な言葉が付け足されていた。
- Kさんの追加質問「どうして、そこいいと思うんですか？」に対して、質問された方は、自分の話した内容について、考え直すことができた。
 - ▲ 話型（いいモデル）の長所と短所がある
 - 話型があるから話せる子
 - 話型がじゃまになる子も（機械的な話し合いになることもある）



【秋葉指導主事のご指導から】

- ・ 「文章を読んで感じたことや分かったことを共有する」力を育てるため、共有しやすくするための配慮や、互いの思いや考えを受容する雰囲気があった。
- ・ 子どもたちと決めた单元名「ようこそ おはなしの森へ」が明記されていたり、並行読書コーナーがあったりと、学習環境が整っていた。並行読書マトリックスは、視覚化することで量感が分かり、読む力に集約していく良い手立てとなる。
- ・ 教師のモデルは、とても大事なことで、「こういうことができたなら力がついている」という評価に直結する。
 - ▲ 音読の目的を伝えるといい。
 - 叙述を追っているかどうか、明確ではなかった。